

ふるさと歴史アラカルト

昔のサウナ？ 石風呂

寒さが厳しさを増してくると、温かい風呂にゆつくり漬かりたいと思う人も多いのではないだろうか。風呂の歴史は長く、現在ではお湯に漬かるものを指すことが多いですが、江戸時代より前は蒸し風呂が一般的でした。今回は、蒸し風呂の一種である石風呂について紹介します。

石風呂は岩をくり抜いたり、石を積んだりすることによって密室を造り、その中に蒸気をこもらせて浴びるものです。蒸気を出す方法には、石を焼いて水を注ぐ方法や、火をたいた後に濡らした海草などを敷く方法がありました。岩国市内においても「玖珂郡志」から、室木村、平田村、関戸村、由宇郷、神代村（大番）、玖珂本郷などにあったことが確認できます。

室木村の石風呂は、元禄12（1699）年に始まったとされ、一度崩れた後、享保12（1727）年に再建されました。6代岩国藩主吉川経永の母である正理院なども訪れています。

関戸村の石風呂は、「錦川志」によ

ると、近隣に温泉がなかったために行われていたとあります。また蒸気の出し方が、火をたいて灰を撤去した後に海草を敷く方法であったことが記されています。

その他、比較的新しい時期に造られたものとして牛野谷の石風呂があります。門前に住む桂安純が明治31（1898）年に記した「愛宕村記録」によると、近頃、牛野谷に石風呂が造られたとあり、「錦川志」にも記述があることから、江戸時代の終わりごろに造られたものと推測されます。この石風呂は昭和40年代まで使用されていたといわれています。

なお石風呂の効能として、室木村のものは眠気、歯痛、耳鳴り、頭痛などに効果があつたと記されており、関戸村のものは特に頭痛に効果があつた他、乗り物に乗ってきた人も数日後には歩いて帰ることができるくらい回復していたと記されています。昔も今も、風呂に体の癒やしを期待していたことは変わらないようです。



牛野谷の石風呂（牛野谷観音堂境内）

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

※1 広瀬喜運が享和2（1802）年、岩国領内各村の情報について細かく記したもの

※2 山田青門が文久2（1862）年、錦川沿岸の寺社や名所、名産などについてまとめたもの

岩国市 人口・世帯

人口 132,171人【前月比 - 5人】 男性 62,840人 女性 69,331人

世帯 65,662世帯【前月比 + 45世帯】 ※外国人人口を含む（2021年1月1日現在）

交通事故発生件数

12月分事故件数 18件（215件） 死者数 0人（3人） 傷者数 22人（262人）

※高速道路発生分を除く。（ ）内は2020年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX (21)3337